

グランプリ東北(CVG東北)

建築用パースAIサービス Archiviz(アーキビズ)



東北工業大学
大学院
三品 亮祐

最優秀賞

建築・不動産業界において、パース図は図面を読めないお客さまと建築をつなぐ重要なコミュニケーションツールである。その作成にはCADなどの専門知識が必要であり、1枚あたりの数時間から数日かかる。また、外注コストと納期遅延は、顧客との合意形成と受注活動におけるボトルネックとなっており、私

生成時間を5分に短縮

私はAIの力で解決したいと考えている。建築用パースAIサービス「Archiviz」は、設計用図面や3Dモデルからパースを生成する時間をわずか5分へと短縮し、プロ並みのクオリティで生成する。ハイスペックPCを持たない中小工務店や設計事務所でもクラウド上での高速処理により、導入可能である。よって、コンペの工数削減や商談時の即時提案が実現し、受注活動の効率化させる。今後は産学連携体制でサブスクリプション(定額制)モデルによる業界のDX推進を目指す。



PrivArchI~埋もれた紙資料を、検索できる知識へ~

東北大学

小武 右京
佐藤 夏樹

散在する情報を、すぐ使える形に

資料がどこにあるかわからない。見つけても長くて要点がつかめない。けれど生成AIに投げるのは情報漏洩が怖い。研究室や自治体、企業の現場では、さまざまな媒体の資料が複雑に保管されがちです。その結果、必要な情報を探すだけでなく、手間がかかり、同じ資料を何度も開いて読み直すなど、時間を大きく浪費してしまっています。社内文書からメモまで、散在する情報を、すぐ使える形に変え、探す・読む時間を減らしながら、組織の知を資産として循環させます。

東北の学生が独自のビジネスプランで競い合う「第21回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)東北」(日刊工業新聞社共催)の最終審査会が、2025年12月17日に仙台市内で開催された。

最優秀賞に三品さん CVG全国大会に出場

今回は東北6校から15件の応募が寄せられ、書類審査を通過した5グループが最終審査に進出。会場では、学生たちが緊張しながらも真剣な表情で自らの事業プランを審査員に向けて発表した。限られた持ち時間の中で、言葉を選びながら

創性、社会的意義を問う鋭い質問が相次いだ。学生たちは一つひとつの質問に丁寧に答え、プランの背景や将来性を熱意をもって説明。若い挑戦者と審査委員が真剣に向き合う緊張感と熱気が満ちていた。審査の結果、最優秀賞には東北工業大学・三品亮祐さんが選ばれた。三品さんは24日に東京で開催される全国大会に、東北代表として出場する。

学生的情熱が東北の未来を拓く



最優秀賞の三品さんのプレゼンテーション



ごあいさつ

CVG東北実行委員会委員長 宮本 保彦

本年度も東北各地の大学・高校専攻科から、計15件の多彩なアイデアが寄せられました。厳正な審査を経て、5件の受賞プランが決定し、最優秀賞には東北工業大学の三品亮祐さんが選ばれました。

東北の未来に新たな希望の光ともし

品花さんが輝き、受賞された皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。今回の応募プランも、社会の変化を敏感に捉え、地域の未来をより良くしようとする意欲と創意工夫が随所に感じられるものでした。東北地方では、人口減少や若者の流出といった社会課題が深刻化を招き、地域の産業構造やコミュニティの維持にも影響が及んでいます。このようななか、これらの東北を支える若い皆さんが、地域の課題を自らの視点で捉え、解決に向けたアイデアを形にし、ようとする姿勢は、何よりも心強いものです。厳しい状況がある一方で、東北の産業界には明るい動きも広がっています。半導体関連産業の集積が進み、自動車産業の高度化も加速するなど、地域の産業基盤は着実に強化されています。仙台市では次世代放射光施設「ナノテラス」が本格稼働し、世界最先端の研究開発拠点として期待が高まっています。さらに、日本海側を中心に洋上風力発電の商用プロジェクトが進み、青森・秋田・山形でも新たな計画が動き出しています。福島では水素関連インフラの整備が進むなか、脱炭素社会の実現に向けた取り組みも着実に前進しています。これらの動きは、東北が持つ潜在力をさらに高め、皆さんが今後活躍していくフィールドをより豊かで魅力あるものにしていくはずです。本大会を通じて皆さんが示してくれた創造性とチャレンジ精神は、東北の未来を照らす新たな光です。しかし、これから先、アイデアを具現化していく原動力になることを確信しています。皆さんがこれから歩む道においても、この大会で得た経験は、必ずや大きな力となることでしょう。さらなる飛躍を心より期待しています。

第21回CVG東北実行委員会

(敬称略)

- 〈委員長〉
宮本 保彦 (東北経済連合会副会長・東経連ビジネスセンター会長)
- 〈委員〉
佐竹 佳典 (東北経済産業局長)
浅倉 俊一 (東北ニュービジネス協議会会長)

- 鎌田 充志 (みやぎ工業会理事長)
引地 智恵 (工藤電機代表取締役)
伊藤 明彦 (伊藤製作所社長)
太田 光一 (福島製作所社長)
斉藤 伸介 (日刊工業新聞社東日本支社長)

貴重な自然の恵みを エネルギーにかえて。

1951年の創立当初から水力電源の開発を進めてきた、東北電力グループ。以来、培ってきた経験と知見を活かし、再生可能エネルギー事業に東北・新潟の皆さまとともに取り組んでまいりました。東北電力グループは、これからも再生可能エネルギーのさらなる拡大を目指してまいります。

